

第29回 名古屋市アジア・アジアパラ競技大会推進本部会議

次 第

日 時：令和8年6月15日（月）9:30～10:10

場 所：本庁舎2階 特別会議室

（中村区・中区以外の区はオンライン参加）

○ 議題

1 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に係る追加の職員応援について

【資料1—1, 2, 3・2】

2 第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）テックボールの競技会場について

【資料3】

第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）テックボールの競技会場について

(取扱注意)

資料3

1. 概要

6月までに国際競技団体による視察が行われ、テックボールについては、国際競技団体より、本市の東スポーツセンターで実施したいと要望があった。

なお、同センターは各国の事前合宿の受入れ候補地として、あらかじめ9/1～10/31まで確保していたが、5月末時点で応募がない状況であった。

競技名	競技会場	施設所有者	借用期間
テックボール	東スポーツセンター	名古屋市	未定*

*借用期間は未定であるものの、現在確保している9/1～10/31の間に収まる見込み

2. 追加競技の実施に係る費用負担について

組織委員会とOCA及び国際競技団体との間で、組織委員会の対応方針を盛り込んだうえで、正式協議への追加に合意する覚書を締結しており、準備・運営等にかかる全ての費用は国際競技団体が受け持つ。今後、警備体制等の競技実施に向けた各種調整も国際競技団体主導で行われる。

<組織委員会の対応方針（主な内容） ※組織委員会プレスリリース資料より抜粋>

- 追加競技の実施に係る準備・運営は全て国際競技団体が自らの責任において実施すること
- 当組織委員会の支援は最低・最小限のものとして列挙された事項に限ることとし、その費用については国際競技団体が負担すること
- 開催行為に起因して発生した一切の問題は、国際競技団体が自己の責任と費用において解決すること

3. 市内競技会場図（アジア17競技18会場、パラ10競技10会場）



4. 今後の予定

- | | | |
|----------|---------------|---------|
| 6月15日(月) | 名古屋市 推進本部会議 | |
| 16日(火) | 組織委員会 第55回理事会 | → 会場仮決定 |
| 6月以降 | OCA総会 | → 会場本決定 |
| 9月19日(土) | アジア競技大会 開会式 | |

以上

<名古屋市内競技会場>

(2026年6月時点)

会場 所在区	競技会場	競技	
		アジア競技大会	アジアパラ競技大会
千種区	名古屋市中心企業振興会館	ウェイトリフティング	パワーリフティング
東区	名古屋市東スポーツセンター	テックボール	
北区	愛知国際アリーナ	柔道・バスケットボール	車いすバスケットボール
中村区	名古屋競輪場 BMX レースコース	自転車競技 (BMX レーシング)	—
中区	愛知県庁・名古屋市役所周辺コース	陸上競技 (競歩)	—
昭和区	名古屋市鶴舞公園多目的グラウンド [テラスポ鶴舞]	—	ブラインドフットボール
瑞穂区	名古屋市瑞穂公園陸上競技場	陸上競技 (トラック/フィールド)	陸上競技
	(都心コース)	陸上競技 (マラソン)	—
	名古屋市瑞穂公園ラグビー場	ラグビー・サッカー	—
	名古屋市瑞穂公園体育館	セパタクロー	テコンドー
港区	愛知県武道館	武術太極拳・コンバットスポ ーツ (柔術・クラッシュ)	柔道
	名古屋市港サッカー場	サッカー	—
	名古屋市稲永スポーツセンター	レスリング・コンバットスポ ーツ (総合格闘技)	パラフェンシング
	名古屋市国際展示場[ポートメッセなごや]	スポーツクライミング	—
	名古屋金城ふ頭アリーナ	スカッシュ	—
	金城ふ頭駅前特設コート	バスケットボール (3x3 バスケットボール)	—
南区	名古屋市総合体育館 [レインボーホール]	体操	ボッチャ
	名古屋市総合体育館 [レインボープール]	水泳 (水球)	水泳
守山区	小幡緑地	自転車競技 (マウンテンバイク)	—
天白区	名古屋市東山公園テニスセンター	テニス	車いすテニス
		17 競技/18 会場	10 競技/10 会場

参 考

【テックボールの概要】

- サッカーと卓球の要素を組み合わせたスポーツ
- サッカーと同様に、手以外の体の部位でボールを相手コートに打ち返す競技
- 2012年にハンガリーで誕生した新しいスポーツ
- 湾曲した専用のテーブル「テックテーブル」を使用



写真提供：国際テックボール連盟

<国際テックボール連盟 (FITEQ) による解説>

テックボールは、運動能力、精密さ、そして卓越したボールテクニックを融合させた次世代のスポーツで、独特にカーブしたテーブルの上でプレーされます。テックボールは、「曲面がボールの動きをより滑らかにし、新たなプレースタイルを生み出せるのではないか」という発想から生まれ、数年にわたる開発の末、最初の TEQ テーブルが誕生しました。

このスポーツは 2016 年に、ブラジルのサッカー界のレジェンドでありテックボールのアンバサダーでもあるロナウジーニョによって世界に正式に紹介され、2017 年には国際連盟「FITEQ」が設立されました。

テックボールは急速に世界的なスポーツへと進化し、革新的なトレーニングや育成プログラムによって、世界中のアスリートがこの競技を始め、成長させることを支援しています。現在では、150 か国以上の何万人ものアスリートがグローバルなテックボール・コミュニティの一員となっており、アジアでの存在感も強く、日本でも活発な発展を遂げています。

選手たちは足、頭、胸、太ももだけを使って、1対1やダブルスの激しいバトルの中で、世界レベルのスキル、創造性、そしてコントロールを披露します。始めやすく、観戦していても迫力満点、デジタル時代にぴったりのこのスポーツは、どこでも、いつでも、あらゆる年齢層の人々に公平なプレーと純粋なアスリートの表現を提供します。

以上